

緒を以、年來兩丸江御守札等獻上致し、是又裏家に而ハ、仕立方其外差支候由を以、追々寺社奉行江及歎願事實無餘儀筋に付、陰陽師之内、右兩人并同職に而、兩丸御釜入御用相勤候齋田宮大夫儀ハ、追而同家相續人取極候上、右之もの共に限り、武家地之外、市中何れ之場所に而も、表店借受、勝手次第住居致シ、尤莊嚴向等取飾候儀、其外等ハ、兼而御觸之趣相守候様、寺社奉行所に而、今般申渡候間、右之趣、町役人共相心得居候様、早々可申通候、

但月行事持之場所は、最寄名主共より可申通、

弘化二巳年八月廿一日

〔撰要集二十五上〕安永六酉年三月〇中

堀江六軒町嘉兵衛店

仁兵衛

右仁兵衛申候者、前書之飛田長兵衛と申もの、去ル午年、土御門殿蒙御免、十二支七ツ目守鏡、大坂表に而賣弘申候、然處仁兵衛義、去ル申六月中、用事に而、大坂表江罷登候節、仁兵衛義、長兵衛と所縁有之候に付、右守鏡、御當地に而も賣弘吳候様、長兵衛相願候而、土御門殿御内、岡部圖書と申者方より、御當地神田土御門殿御役所、吉村權頭と申もの方江之添狀壹通、長兵衛相渡候に付、右添狀、去ル申十二月中、權頭方江、仁兵衛持參仕相届、御當地に而も、仁兵衛取次に而、右守鏡賣弘申度段、權頭江相願置候處、當二月四日、權頭方より、仁兵衛呼に參候間、則罷越候得ば、右守鏡、勝手次第賣弘候様にと申渡候に付、右賣弘申度段、當御役所江御訴申上候處、追而御呼出可被遊段被仰渡候旨申之、尤右十二支守鏡之義は、長兵衛蒙御免候儀にて、仁兵衛儀は、取次而已之儀に御座候間、守鏡之譯は一向存不申、勿論右守鏡、角鏡、丸鏡、兩様共、長兵衛方より差下シ申候由に而、賣買直段并看板仕方、賣弘候場所等之儀申候に付、左に申上候、〇中略

右一通相尋候處、前書之通御座候、則被遊御渡候、訴書寫并守鏡貳枚返上仕候、以上、